

地区の概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053909

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



1. 地区の概要

西本 陽一

1. はじめに
2. 門前地区の概要
3. おわりに

1. はじめに

金沢大学人間社会学域文化人類学研究室は、2018年度の学部3年生を対象とする調査実習を、石川県輪島市門前町門前地区で実施した。本報告書は調査実習に参加したメンバーが執筆した報告によって構成されており、本研究室の調査実習報告書としては34冊目となる¹。

本報告書は全体として総合的な地域調査実習報告書をめざしているが、第3章以下の各章は、主に各執筆者の関心に応じたテーマについて書かれているために、全体として対象地域の生活についての網羅的・体系的記述がなされていないわけではない。そのため本章では門前地区について概観し、第3章以下の個別テーマによる各論への導入とする。

2. 門前地区の概要

本年度文化人類学調査実習の対象地域である門前地区は、門前、清水、走出、和田（さくら団地）、谷内和田、下中和田、高根尾、本市、栃木、深田、広瀬、日野尾、鬼屋、館、広岡、広岡（広岡団地）、西中尾、小滝、上河内、猿橋、小石の21集落である²。本報告書では、この21集落を「門前地区」と呼ぶ。

門前地区は石川県の北部、能登半島西北部に位置する。大部分が海拔300m以下の丘陵地で、北川に八ヶ川が、南に阿岸川が東から西に流れて日本海に至っている。またこの地区は大まかに、商業住宅地区、農業地区、山間集落に分けられる。八ヶ川流域には門前、

¹ 既刊の調査実習報告書一覧は、巻末の「参考文献・参考資料」に掲げてある。

² 2018年6月8日付住民基本台帳によると門前地区は、門前、清水、走出、和田、和田（さくら団地）、谷内和田、下中和田、高根尾、本市、本市住宅、栃木、深田、広瀬、日野尾、鬼屋、館、広岡、広岡（広岡団地）、西中尾、小滝、上河内、猿橋、小石の23集落から構成される。一方、「平成30年 門前地区 区長名簿」（門前地区区長会）には、1. 小石、2. 上河内、3. 風原、4. 小滝、5. 猿橋、6. 廣岡、7. 広岡住宅、8. 館、9. 西中尾、10. 鬼屋、11. 門前、12. 清水、13. 走出、14. 日野尾、15. 広瀬、16. 深田、17. 栃木、18. 本市、19. 本市住宅、20. 高根尾、21. 谷内和田、22. 下中和田、23. さくら団地の23集落が記載されているが、3. 風原は1世帯のみ、19. 本市住宅は2世帯のみのために、実習調査対象から除外したほうがよいと区長会長さんより助言を受けた。2018年6月8日付住民基本台帳上に風原の記載がないのは、唯一世帯のひとり暮らし老婦人が老人ホームに世帯を移したためである。

清水、走出、和田、和田（さくら団地）、谷内和田、下中和田、高根尾、本市、深田、広瀬、日野尾、鬼屋、館の集落と水田が見られる。八ヶ川支流の栃木川や鬼屋川を登った場所には栃木や鬼屋、西中尾の集落が見られるほか、館からやや山中に入ると広岡住宅および広岡がある。一方、南の阿岸川沿いに、小滝、猿橋、上河内、小石などの集落が形成されている。生活の面から見ると、總持寺祖院前に商業地域が広がり、さらに外側に住宅地が広がる一方、八ヶ川流域の沖積平野では農業が行われるとともに、山地集落では山での仕事や出稼ぎが多く見られた。そのほかさくら団地、広岡住宅、本市住宅などの公営住宅も見られるという構図となっている。門前地区南部にはかつて櫛比小学校猿橋および小石分校があり、小学校4年まで分校で勉強した子供たちは5年生から櫛比小学校で学んでいた。この点で、八ヶ川と阿岸川という水系の異なる北南の両地区には人的交流があった³。

現在、交通面では、金沢市から北鉄特急バスに乗り、穴水で普通バスに乗り換えて門前に至ることができる。約2時間半の行程で、12時過ぎと13時過ぎの2本のバスが金沢駅から出ている。門前から金沢へも同様に、13時台と14時台のバスで、穴水での乗り換えによって、金沢に至る（2時間半前後の行程）。自動車では、のと里山海道（無料道路）を利用して、111キロ、2時間弱で金沢から門前まで行くことができる。

門前地区には、北側の商店街や農業地区を通して、国道249号線とそのバイパスが東から西に走っている。主な公共施設や事業として門前地区内には、總持寺祖院およびその前の商店街、輪島市役所門前総合支所、門前公民館、輪島警察署門前交番、門前郵便局、輪島市立門前東小学校、輪島市立門前中学校、石川県立門前高等学校などの公共機関のほか、JAおおぞら門前支店、北國銀行門前支店、興能信用金庫門前支店、ガソリンスタンド、特別養護老人ホームゆきわりそう⁴などがある。

表1 門前地区のおおまかな地域区分

商業住宅地区	門前、走出、広瀬、日野尾、館、広岡
団地	さくら団地、広岡住宅、本市住宅
農業地区	清水、谷内和田、下中和田、高根尾、本市、深田、鬼屋
山間集落	栃木、西中尾、小滝、上河内、猿橋、小石

出所：筆者作成

歴史的に見ると、門前地区はもともと中世の「櫛比荘」（くしひのしょう）に由来する。中世の頃には櫛比荘とよばれた地域の中で、当時、八ヶ川や阿岸川流域の谷筋と丘陵地には、村や里と呼ばれた農村集落が展開していた（『新修門前町史 通史編』2006：187）。櫛比荘は、「八ヶ川流域から（門前）町南部阿岸川・仁岸川流域にわたる地域（で、）伊勢神

³ 区長会長による（2018年7月）。

⁴ 深田にある。平成17（2005）年9月開設。ゆきわりそうについては、高齢者の生活を扱った第6章を参照のこと。

宮に贅（にえ）を貢納する神領であったため、櫛比御厨とも称された」（『図説門前町の歴史』2004：18-19）。

明治22（1889）年には町村制が施行され、門前地区でもかつての小村が合併して新たに大きな村を形成した。門前村、広瀬村、鬼屋村、走出村、日野尾村、清水村、和田村、館村、広岡村、西中尾村、小滝村、上河内村、小石村、猿橋村、深田村、高根尾村、本市村、栃木村の18か村が合併して櫛比村となり、町役場は走出におかれた（『新修門前町史 通史編』2006：430-437、『角川日本地名大辞典 17 石川県』1981：900）。明治31（1898）年4月13日に總持寺が焼失し、その後明治44（1911）年に總持寺は神奈川県横浜市鶴見に移転した。門前町には「大本山總持寺別院（祖院）が設立されたが、總持寺移転は地元経済に影響した。

昭和5（1930）年1月1日に櫛比村は門前町に改称し、町制が施行された。これが「旧門前町」である（ウィキペディア「門前町（石川県）」）。明治後期から昭和の初めまで、門前地区では養蚕業も盛んであったが、太平洋戦争開始とともに欧米向けの生糸輸出が停止し、養蚕業は大きな打撃を受けた。昭和20（1945）年に第二次世界大戦が終わると、門前地区も物資と食料の窮乏の中に落ち、食糧増産に励むことになった⁵。

昭和29（1954）年3月には、「昭和の大合併」により、旧門前町と本郷、浦上（うらかみ）、七浦（しつら）、諸岡、黒島各村が合併し新生門前町が誕生した。その後昭和31（1956）年に刃地（つるぎじ）村も門前町に編入された。ところが新生門前町が河川の護岸改修をすすめていた昭和33、34（1958、59）年には、集中豪雨により各河川が氾濫して大洪水となり、住民に大きな被害をおよぼした。「集落のなかには『挙家離村』で集落人口が激減し、集落内の共同作業などが実行不能に陥るケースさえ出てきた」。「水害ブーム」と呼ばれる復興景気があったものの、水害は人口流出・過疎化をはさらに進めることとなったのである（『新修門前町史 通史編』2006：677-682、688-691、698）。

人口流出に対処するために門前町は昭和39（1964）年に「工場誘致条例」を制定した結果、「八台機屋」とよばれる零細な家内工場が次々と現われたが、「主婦出稼ぎ」は抑止できたものの男子や若年の労働者層の流出を食い止めることはできなかった。対策として町は観光産業の開発を図ったが、「観光客を誘致するための道路交通網の整備も、逆に若年層の都市部への『ストロー現象』を招く結果となった（『新修門前町史 通史編』2006：699）。

このような中、門前町は交流人口を増やしながら町の活性化を図ることをめざした。平成元（1989）年には「のと門前『日本海むら』構想」が打ち出され、「日本海サミット」が開催された。門前地区に特に関わりのあるものとしては、「里おこし・郷まつり」「門前そばの市」「ふるさと門前まつり」などが創出された（『新修門前町史 通史編』2006：704-709）。

これら一連の地域振興策にかかわらず、過疎化と少子高齢化がいぜん進行する中で、活性化をめざして「平成の大合併」のあり方が議論された。そして平成18（2006）年2月1

⁵ 門前地区にかつて存在した植戸集落は、戦後の引揚げ者や復員兵によって結成された開拓団が入植した場所のひとつである（『新修門前町史 通史編』2006：674-675）。

日に、門前町と輪島市が合併し新「輪島市」となった（『新修門前町史 通史編』2006：709-713）。

表2 門前地区の神社

所在	名称
門前	櫛比神社
清水	豊受神社
走出	櫛比神社
谷内和田	伊須流岐神社
中和田	八幡神社
下和田	高佐岐神社
高根尾	伊須流岐神社
本市	八幡神社
栃木	石倉神社（下の宮） 若宮八幡社（奥の宮） 石動神社（南山）
深田	太田神社
広瀬	伊須流岐神社
日野尾	伊須流岐神社
館	若宮八幡宮
広岡	春日神社
鬼屋	鬼屋神社
西中尾	石動神社
小滝	小瀧神社
猿橋	猿橋神社
上河内	瀧神社
小石	石動神社
風原	小山神社（かつて）

（『門前町の祭り』2004：43-52より作成）

平成19（2007）年3月25日には能登半島地震が発生し、總持寺周辺の地域を中心に門前地区は大きな被害に見舞われた。私たちが滞在調査をおこなった2018年8月の時点で、商店街は復興されていた一方、地震後に商売をやめたり他所へ移住する人もいたという（門前、女性、75歳）。また總持寺祖院の建物はいまだ修復作業の途中だった。

門前地区の生業はかつて、總持寺前の堅町通りを中心とする地域では商業、八ヶ川流域の地域では水稲主体の農業、山間集落では炭焼きや漆かきなどの山の仕事を中心としてい

た。しかし、高度経済成長期（1955～75年）からは役所や民間会社への勤め、都市での就労などの仕事が増えた⁶。都市での就労は、とくに山間集落で多く見られた。山間集落はもともと小規模集落だったが、国勢調査による人口データを見ると、平成2（1990）年からは植戸が、平成22（2010）年からは風原が住民なしとなっている。総じて言えば、現在門前地区は高齢化が進み、住民の多くは仕事を引退して年金生活するとともに、農業などを副業として暮らしている。

表3 門前地区の寺院

名称	宗派	所在
総持寺別院	曹洞宗	門前
芳春院	曹洞宗	門前
興禅寺	曹洞宗	門前
専徳寺	真宗大谷派	和田
寂静寺	真宗大谷派	高根尾
徳善寺	真宗大谷派	栃木
覚皇院	曹洞宗	広瀬
明敬寺	真宗大谷派	鬼屋
満覚寺	真宗大谷派	広岡

（『石川県鳳至郡誌』1923 掲載寺院をインターネットで確認）

現在、門前地区内には、輪島市立門前東小学校、輪島市立門前中学校、石川県立門前高校がある。いずれも門前地区だけでなく周辺地区の子供たちが通っている。かつて旧門前町には地区ごとに多くの学校が存在したが、児童数の減少により、上記の各学校に統合されていった。門前東小学校の前身である櫛比小学校では、地域事象の教材化のために、子供たちの原稿をもとにして、『こども門前風土記』1～6巻を1958年から72年に刊行した⁷（『新修門前町史 通史篇』2006：758-796、『櫛比』2006）。

門前地区の各集落は、基本的にそれぞれ神社をもち、春祭り、火祭り、夏祭り、秋祭り、新穀祭・新嘗祭などをおこなっている（表2）。無形民俗文化財指定の祭りとしては、いずれも県指定で、鬼屋・鬼屋神社のぞんべら祭り、門前・走出の櫛比神社および豊受神社（清水）の万歳楽土（まんざいろくと）がある（『門前町の祭り』2004）。

⁶ その他、広岡区などを中心に船員になる者もいた。

⁷ 『こども門前風土記・第一巻・歴史篇』1958年、『こども門前風土記・第二巻・続歴史篇』1962年、『こども門前風土記・第三巻・人物篇』1959年、『こども門前風土記・第四巻・生活篇』1959年、『こども門前風土記・第五巻・統計篇』1960年、『こども門前風土記・第六巻・物語篇』1972年（いずれも門前町社会科研究部編）が刊行された。

仏教については、門前地区の大部分の世帯が真宗大谷派門徒であるが、一部に曹洞宗信徒がいる（区長会長、2018年8月）。真宗寺院の主な仏事は報恩講（11月28日の親鸞聖人の命日にかけて数日間）と祠堂経（「永代経」とも言う）である。また満覚寺の廣陵兼純師のように、名高い説教師もいる⁸。

3. おわりに

以上、門前地区について概観してきた。

本調査実習の目的はフィールドワークを通して学生が地域社会の現状を理解することである。方法としては、これまでの調査実習と同様に、4月から7月まで主に大学研究室にて調査方法の学習や文献・統計資料の収集、分析などを、予備調査と並行して行い、8月後半に対象地域に滞在して住民の方々へ集中的に聞きとり（「本調査」と呼ぶ）を行った後、10月から2月まで学生が各自の関心にもとづいて報告書を作成してゆくという方法をとった。報告書執筆時には、各学生の必要にしがたい適宜補充調査を実施した⁹。

先述したとおり、本報告書は全体としてひとつの総合的な地域調査報告書を目指しているが、第3章以下の各章は各執筆者の関心に沿ったテーマについて書かれているため、全体として門前地区についての網羅的、体系的な記述がなされているわけではなく、地域を語る際に重要な事柄がいくつか抜け落ちている。さらに、短い本調査とその後の散発的な補充調査で得られたデータは限られたものであり、お話をうかがう機会のなかった方も多い。何よりも学生の実習ということで調べる側の未熟さと言うまでもなく、本報告書の記述にも分析にも不正確、不十分な点があるものと自覚している。ここにお詫びするとともに、関係各位の忌憚ないご批判、ご叱正をお願いする次第である。

本報告書で示される聞きとり対象者の年齢は、その方の2018年12月末日時点の満年齢である。

⁸ 廣陵兼純さんなどの説教は話芸としてもすぐれているため「節談説教」（ふしだんせっきょう）と呼ばれる。かつて満覚寺では「節談説教布教大会」が開かれ、多くの人びとを集めていた。2018年8月にお話を伺うことが出来た廣陵さんは、住職職を息子さんに譲り、80歳を超えた現在でも説教師として各地に赴いているとおっしゃった。

⁹ より具体的な調査日程については、本書「おわりに」に掲げてある。